

IV-6 中国・四国

エリア全体では延べ宿泊者数、外国人延べ宿泊者数ともに増加
広域でのイベントやキャンペーン、連携強化の動き多数
観光施設の新規オープンやリニューアルが相次ぐ

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

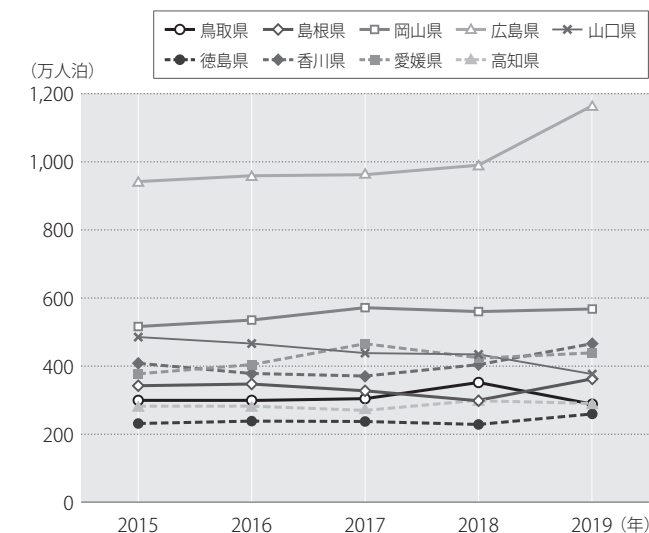
観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2019年1～12月の中国・四国地方全体の延べ宿泊者数は4,210万人泊となり、前年比で5.4%の増加であった。

県別にみると、延べ宿泊者数が増加した県は、島根県（前年比22.4%増）、広島県（同17.5%増）、徳島県（同15.5%増）、香川県（同15.1%増）、愛媛県（同3.2%増）、岡山県（同0.8%増）であった。一方、減少した県は、鳥取県（前年比18.9%減）、山口県（同13.6%減）、高知県（同3.7%減）であった（図IV-6-1）。

2019年1～12月の中国・四国地方全体の外国人延べ宿泊者数は342万人泊となり、前年比で11.4%の増加であった。

県別にみると、外国人延べ宿泊者数が増加した県は、島根県（前年比43.1%増）、香川県（同41.3%増）、高知県（同20.5%増）、徳島県（同14.9%増）、広島県（同6.9%増）、岡

図IV-6-1 延べ宿泊者数の推移（中国・四国）



単位：万人泊

資料：観光庁「令和元年宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

山県（同3.7%増）であった。一方、減少した県は、山口県（前年比14.9%減）、愛媛県（同5.8%減）、鳥取県（同5.2%減）であった（図IV-6-2）。

(2) 観光地の主要な動き

① 地方・都道府県レベル

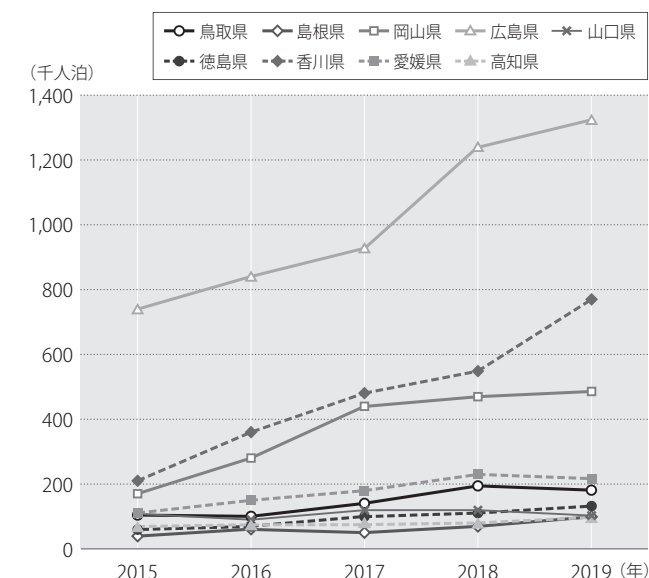
● 瀬戸内国際芸術祭2019 開催

2019年4月～5月の春、7月～8月の夏、9月～11月の秋の3会期、計107日間にわたり、瀬戸内海の12の島々と2つの港周辺を舞台に、「瀬戸内国際芸術祭2019」が開催された。

これまでの芸術祭に引き続き「海の復権」をテーマとして、世界32の国と地域から230組のアーティストが参加し、瀬戸内の資源に焦点を当てた作品や、体験型の作品を展開したほか、アジアの各地域と瀬戸内の島々との連携プロジェクト、島の「食」を味わう食プロジェクト、パフォーマンスアーツなどの多様な展開に重点的に取り組んだ。

また、高松港周辺の北浜や屋島（四国民家博物館）、小豆島の四海地区を新たに会場エリアに加え、作品展開を行ったほか、オフィシャルツアー、SETOUCHI企業フォーラム、SETOUCHI ART BOOK FAIRなどの新たな取り組みや、

図IV-6-2 外国人延べ宿泊者数の推移（中国・四国）



単位：千人泊

資料：観光庁「令和元年宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

会場である島の住民のネットワークを構築する「島間交流事業」、教育委員会や学校と連携した「学校連携事業」などにも取り組んだ。

同実行委員会の総括報告によると、総来場者数については、今回初めてゴールデンウィークを会期に含んだこともあり、3会期合わせて約118万人と過去最多となった。今回の特徴として、外国からの来場者の割合が約23%と前回から約10ポイント伸びており、実行委員会では、海外の主要なメディアにも取り上げられたことや高松空港の国際線ネットワークが充実したことなどを要因として分析している。また個別には、今回初めて、高松-大島間が一般旅客定期航路としての運航を開始したことで、大島への来場者が大きく増加したとしている。

●せとうちDMOが関係団体との連携を強化

せとうちDMO（(一社)せとうち観光推進機構及び(株)瀬戸内ブランドコーポレーション）は、インバウンドを核とした観光ビジネスの拡大による瀬戸内地域の活性化に向け、地域DMOなどとの連携協定の締結を積極的に進めている。

具体的には、2019年7月に(一社)内子町観光協会、(一社)キタ・マネジメント、内子町、大洲市と「せとうち拠点地区での観光地域経営に関する連携協定」を締結した。また同年12月には、(一社)豊岡観光イノベーション及び豊岡市と「欧米豪インバウンド集客の相互連携に関する協定」を締結した。このことで、せとうちDMOが保有するインバウンドマーケティングの知見や欧米豪の旅行会社との関係といったプロモーション面での能力と、地域DMOが有するコンテンツを活用した商品開発の能力を活かし、効果的なインバウンド誘客を図っていくとしている。

また、せとうちDMOは2019年9月、(一社)九州観光推進機構と「インバウンドプロモーション連携に関する趣意書」を締結した。この連携協定は、自然、歴史文化、アート、食といった多くの魅力的資源を有する瀬戸内と九州の両地域が効果的なプロモーションを行うことにより、インバウンド誘客を図り、広く西日本エリアでの周遊や滞在の長期化を促進することを目的としている。

2019年11月～12月にかけて、この連携協定に基づき、イギリスの旅行会社など6社を対象に、瀬戸内と九州を横断する連携視察ツアーを実施した。

●山陰デスティネーションキャンペーン アフターキャンペーン開催

鳥取県、島根県とJR西日本は、2019年7月～9月まで、「山陰デスティネーションキャンペーン アフターキャンペーン」を開催した。

キャンペーン期間中は、「松江水燈路」の期間拡大や松江堀川遊覧船「お茶船」など、2018年夏に開催した「山陰デスティネーションキャンペーン」で好評を得た観光素材を継続設定するとともに、リニューアルから1周年を迎える「水木しげるロード」での期間限定影絵の投影や、「鳥取砂丘砂の美術

館」でのプレゼント企画、日御碕神社での出雲神楽定期公演など、新たな企画も実施された。

また、2018年7月の運行開始以降、好評を得た観光列車「あめつち」のお盆期間の運転日増強や、アニメ「名探偵コナン」のイラスト列車や石見神楽列車をリニューアルするなど、鉄道の旅もより一層楽しめる内容となった。

●瀬戸大橋周遊観光ワークショップ 発足

2019年10月、有識者や民間事業者、DMO・観光協会、国土交通省や環境省などの行政機関、岡山県、香川県の自治体などの関係者により「瀬戸大橋周遊観光ワークショップ」が設立され、第1回会合が開催された。

この組織は、瀬戸大橋地域の交流活性化等の観点から、瀬戸内における多島美眺望の素晴らしさを活かした周遊型旅行商品の広域周遊観光促進に資する多様な観光コンテンツの形成について議論や施策提言を行うことを目的として設置されたものである。

●「美肌県しまね」冬旅キャンペーン 実施

島根県は、大手化粧品メーカーの株式会社ポーラが実施した「ニッポン美肌県グランプリ」でこれまで7回実施されたうち5回で1位を獲得している。同県では、日照時間が短いため紫外線の影響を受けにくく冬でも湿度が高い地理的条件や、県内に数多く存在する温泉地などの観光資源を有しているなどの地域特性を活かし、「美肌県しまね」として各種PRを行っている。

その一環として、2019年12月～2020年3月にかけて、県内の宿泊施設において“美肌”をテーマに温泉やグルメ、日本酒、各種体験などが楽しめる宿泊プランを提供する「『美肌県しまね』冬旅キャンペーン」を実施した。

②広域・市町村レベル

●水木しげる記念館の建て替えに向けた検討

鳥取県境港市では、2019年9月に入館者数400万人を達成した「水木しげる記念館」のあり方について検討委員会を設置し検討を進めていたが、2020年2月に提言書が取りまとめられ、市に対して提出された。

提言書では、「老朽化が進んでいるが、慢性的な倉庫不足などを解消するため、建て替えは必要」との指摘がなされ、現在地での建て替えと移転新築の2案が提案されている。

提言書を受け取った境港市長からは、故・水木しげる氏の生誕100年となる節目の年である2022年をめどに、構想をまとめられるよう進めていきたいという思いが伝えられた。

●星空保全地域の新規指定

鳥取県では、鳥取県星空保全条例を制定し、優れた星空環境を有する区域のうち、自然的社会的諸条件からみてその区域における星空環境を保全することが特に必要なものを「星空保全地域」として指定するとともに、保全措置や支援

を行っている。

これまで「鳥取市佐治町地域」と「日南町全域」の2地域が指定されていたが、2019年8月に「若桜町全域」、10月には「倉吉市関金町全域」が新たに指定され、指定箇所は合計で4箇所となった。

●大山で入山料の社会実験

鳥取県大山町の大山は、大山隠岐国立公園内にある西日本を代表する山岳である。これまで一木一石運動をはじめとする関係者による山岳環境の保全活動が行われてきているが、その一方で、近年ではし尿廃棄などの課題も指摘されている。

大山町、鳥取県、環境省は、上記のような背景を受け、山頂トイレの維持管理等、山岳環境の保全と持続可能な利用の充実に対する受益者負担による仕組みと影響について検討・分析するため、2019年の8月～11月にかけて、登山者に対して任意の協力金を募る社会実験を実施した。

2020年2月には実行委員会から大山山岳環境保全協議会（仮称）準備会に対して、協力金収入が収受員の人件費等の経費を上回り、大山の保全・管理のために一定額を充当できると見込まれる社会実験の実施結果を踏まえて勧告が行われた。

●10年に一度の神事ホーランエンヤ開催

2019年5月、日本三大船神事の一つとされ、10年に一度行われる鳥根県松江市の城山稲荷神社の式年神幸祭（通称ホーランエンヤ）が行われた。

9日間の期間中、城山稲荷神社から神輿を船団で運ぶ「渡御祭」、7日間の大祈禱が行われる中日に權伝馬踊りが奉納される「中日祭」、再び船団によって城山稲荷神社へと御神霊を送る「還御祭」の3つの祭礼が行われ、主催者発表によると期間中38.5万人の観客があった。

●足立美術館 日本庭園ランキング日本一・新館オープン

鳥根県安来市の足立美術館では、2019年10月に累計入館者2,000万人を達成した。また、アメリカの日本庭園専門誌『Sukiya Living Magazine : The Journal of Japanese Gardening』が、全国の日本庭園900カ所以上を対象に実施した「2019年日本庭園ランキング」では、同館の日本庭園が「17年連続日本一」に選ばれた。

●倉敷音楽祭 中止

岡山県倉敷市では、日本各地の特色ある芸能文化の紹介や市民団体による公演などで構成する、倉敷市内最大の音楽イベントとして「倉敷音楽祭」を毎年3月に開催しているが、2020年3月に予定していた第34回倉敷音楽祭は国内での新型コロナウイルスの感染が拡大していることを受けて中止となった。

●広島平和記念資料館 リニューアルオープン

広島県広島市の広島平和記念資料館では、原爆の非人道性や原爆被害の凄惨さを伝えていくため、本館・東館を合わせた常設展示の全面的な更新を行ってきたが、本館の展示整備が完了し、2019年4月にリニューアルオープンした。

広島平和記念資料館では、被爆の実相が理解できる施設をめざし「平和記念資料館再整備事業」に取り組んできており、2010年度に「広島平和記念資料館展示整備等基本計画」を策定した後、有識者で構成する展示検討会議を設置し、委員から展示構成や展示手法、展示資料の収集・選定などについて指導・助言を受けながら、展示整備を進めてきた。

今回の本館リニューアルにより常設展示の整備は完了し、2017年4月にリニューアルオープンした東館と合わせ、全ての常設展示が観覧できるようになった。

●湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）オープン

2019年4月、広島県三好市に「湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）」が開館した。

開館の背景には、同市が江戸時代以降、絵本や絵巻、漫画の題材にもなり全国の広い範囲にわたって伝承している妖怪物語である「稲生物怪録（いのうものけろく）」の舞台となった地であることや、日本屈指の妖怪コレクターである湯本豪一氏から約5,000点のコレクションの寄贈を受けたことなどがある。

施設には「日本の妖怪」「稲生物怪録」といった展示室の他、インタラクティブな作品を体験しながら妖怪について学べる「チームラボ妖怪遊園地」があり、老若男女が楽しめるよう、さまざまな工夫が凝らされている。

●ディスカバーリンクせとうちが古民家再生事業に参入

2019年10月、広島県尾道市で地域活性化事業を展開する株式会社ディスカバーリンクせとうちは、株式会社NOTE（兵庫県丹波篠山市）と共同で、広島県福山市鞆の浦にて事業者誘致事業を展開することを目的に、株式会社hitohi（ヒトヒ）を設立した。

鞆の浦では、人口減少や高齢化、空き物件の増加に伴い、町並みの保存や地域の活性化に課題を抱えており、課題解決のため、同社では空き家や古民家を改修し、それを暮らす人や訪れる人のニーズに応えた事業に活用するまちづくりを展開することとしている。

現在、鞆の浦で古民家を宿泊施設として再生する事業を計画中であり、2020年秋に完成を予定している他、福山市の他地域での展開も予定している。

●宮島口旅客ターミナル オープン

2020年2月、広島県廿日市市の宮島で建設中であった宮島口旅客ターミナルが完成し、供用開始された。

同ターミナルは、広島県が進めてきた厳島港港湾整備事業（宮島口地区）の主要なプロジェクトの一つとなっている。

宮島へは、JR西日本宮島フェリーと宮島松大汽船がフェリーを運航しているが、新たに建設されたターミナルでは、2社の券売所から乗場までの各ルートが同じ屋根の下に配置され、わかりやすく開放的な空間となっているのが特徴である。

●四国水族館 オープン

2020年3月、香川県宇多津町のうたづ臨海公園内に2018年7月から建設中であった四国水族館が完成した。

宇多津町が約230年の塩づくりの歴史があること、また、うたづ臨海公園が塩田跡地であることから、施設は宇多津の塩をイメージした白を基調とした外観となっている。

また、展示は「四国水景」をテーマとして、四方を海に囲まれ清流や湖沼なども豊富な、四国ならではの水中の世界をダイナミックに再現するとともに、単なる生物展示だけではなく、四国の文化やそこで暮らす人の営みに関係する環境も水槽内で表現する内容となっている。

施設はイルカ棟と本館棟、屋外施設で構成されており、6つのゾーンと海豚プール、特別展示室で計70の水景を展示している。

同施設は、当初2020年3月中のグランドオープンを予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う緊急事態宣言などを受けて延期を決定し、同年6月から開館することとなった。

●えひめさんさん物語 開催

2019年4月～11月にかけて、愛媛県東予東部圏域（新居浜市、西条市、四国中央市）を中心としたエリア一帯で、「東予東部圏域振興イベント（えひめさんさん物語）」が開催された。このイベントは「東予アクティブライフの創造」をテーマとし、圏域の魅力を発信することにより、一体的かつ持続的な発展につなげることを目的として開催されたものである。

期間中、「ものづくり」「子ども」「水」「山」「あかがね」「紙」といった3市に共通する地域資源を題材としたイベントが実施されたほか、各種祭りなどの連携を行う「連携プログラム」や、地域住民、企業・団体などとする「チャレンジプログラム」も実施された。

●道後温泉で道後アート2019・2020がスタート、道後温泉本館ラッピングアート完成

愛媛県松山市の道後温泉では、アートを通じて交流人口を増やし、将来にわたって継承可能な「道後らしさ」の再構築を行うため、アーティストである日比野克彦氏の監修・参加のもと、2019年5月～2021年2月までの約2年間のプロジェクトとして「日比野克彦×道後温泉 道後アート2019・2020『ひみつジャナイ基地プロジェクト』」をスタートした。

プロジェクトでは、多様な関係者が集い、地域のアート事業の拠点となる交流拠点を作る「ひみつジャナイ基地」（2020年6月に完成）や、展示・パフォーマンス・トークなどさまざまな表現方法でアートを発信していく人々を公募する「オープンコール・プロジェクト」など、各種プログラムが進行している。

また、道後温泉本館は2019年1月より営業しながらの保存修理工事に着手しており、2019年7月には、文化財の保存修理工事の際に建物の屋根や内部を風雨などから保護するために使われる「素屋根」と、作業エリアを囲むための仮囲いが設置された。

道後温泉では、漫画家の故・手塚治虫氏のライフワークである「火の鳥」とコラボレーションした「道後REBORNプロジェクト」を進めており、設置された素屋根には、四方の壁面と屋根面に巨大な「火の鳥」と道後温泉の歴史絵巻を装飾し、仮囲いにはオリジナルアニメーション「火の鳥“道後温泉編”」のキャラクターなどを描いたパネルを設置するなど、アートとして楽しめるようになっている。

●龍河洞 リニューアルオープン

高知県香美市の鍾乳洞「龍河洞」は、2016年から関係者や地域住民、県、市などによる「龍河洞エリア活性化協議会（旧龍河洞まちづくり協議会）」を設置し、リニューアルプロジェクトを進行していたが、2019年7月に「新・龍河洞」としてオープンした。

リニューアル後は、従来の鍾乳洞の神秘世界を楽しめるだけでなく、照明や音の演出、プロジェクションマッピングなどの仕掛けにより、本来の鍾乳洞の魅力をより体感できるようになっている。

（菅野正洋）